

飼料用トウモロコシの新しい優良品種「LG3490」

福島県農業総合センター 畜産研究所飼料環境科

部門名 飼料作物－飼料作物－品種

担当者 松澤保・吉田安宏・片倉真沙美・武藤健司

I 新技術の解説

1 要旨

畜産研究所で飼料用トウモロコシ栽培試験を実施し、「福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準」(平成15年改訂)に基づき評価した結果、「LG3490」が優良な品種であることを認めた。本品種の主な特性は以下のとおりである。

- (1) 発芽から刈り取り適期である黄熟期までの日数が、標準品種の36B08より1日長く、KD640より5日短い早生タイプである(表1)。
- (2) 稈長(地際から雄穂穂首までの長さ)は標準品種より高いが、着雌穂高比率が低い、安定型の草形をしており、倒伏・折損率も低い(表1)。
- (3) 乾物収量は、標準品種と比べ約3%多く、10アール当たりの総乾物収量は2,075kgである。雌穂(実)の割合も標準品種より4~5%高く、単位面積当たりのTDN収量に優れている(表2)。
- (4) 耐病性は、標準品種と同様に、すす紋病、ごま葉枯病、黒穂病、根腐病及びすじ萎縮病に強く、紋枯病にやや弱い傾向がある(表3)。

2 期待される効果

飼料作物の収量性の向上により安定した自給飼料生産が期待できる。

3 適用範囲

平坦部の飼料用トウモロコシ一期作地帯

4 普及上の留意点

- (1) 適期播種を行い、病害や倒伏を軽減するために栽植密度は7,000本/10a以下とする。
- (2) 紋枯病の耐病性は標準品種と同程度だが、発生程度がやや多いので紋枯病多発地帯での栽培は避ける。
- (3) 早晩性のタイプはカタログのRM値によって分類しているが、品種選定に当たっては生育日数も考慮する。
- (4) 流通名は「スノーデント108」であり、販売元は雪印種苗株式会社である。

II 具体的データ等

表1 生育特性(3年間平均)

	RM (カタログ)	生育日数(日)			稈長 (cm)	着雌穂高 比率(%)	倒伏・折損率(%)			
		播種～出芽	出芽～絹糸	出芽～黄熟			倒伏率	折損率	合計	
早生	標準品種									
	36B08	106	8.3	62.0	110.4	243.4	47.2	0.0	0.4	0.4
	KD640	114	7.7	68.3	116.3	299.8	43.9	0.0	0.3	0.3
	検定品種									
	LG3490	105	8.0	64.3	111.3	313.8	40.1	0.0	0.8	0.8

表2 乾物収量(3年間平均)

	乾物収量(kg/10a)	乾物収量			TDN収 量	乾物率(%)			乾雌穂重 割合(%)
		茎葉	雌穂	全体		茎葉	雌穂	全体	
早生	標準品種								
	36B08	864.4	966.2	1830.6	1276.4	23.9	61.0	35.1	52.6
	KD640	1060.5	1131.9	2192.4	1522.0	23.1	62.0	34.0	51.7
	標準品種平均	962.4	1049.0	2011.5	1399.2				
	検定品種								
	LG3490	908.7	1165.9	2074.7	1465.0	22.7	61.5	35.2	56.2

表3 病害発生程度(3年間平均)

	すす紋病 (1~9)*	ごま葉枯病 (1~9)*	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	すじ萎縮病 (%)	紋枯病 (%)	
							早生
	36B08	1.0	1.5	0.2	0.8	0.0	20.0
	KD640	1.0	1.7	0.3	0.7	0.0	21.2
	検定品種						
	LG3490	1.0	1.9	0.0	1.1	0.0	18.3

*:病害が見られないものを1、甚だしいものを9として表示

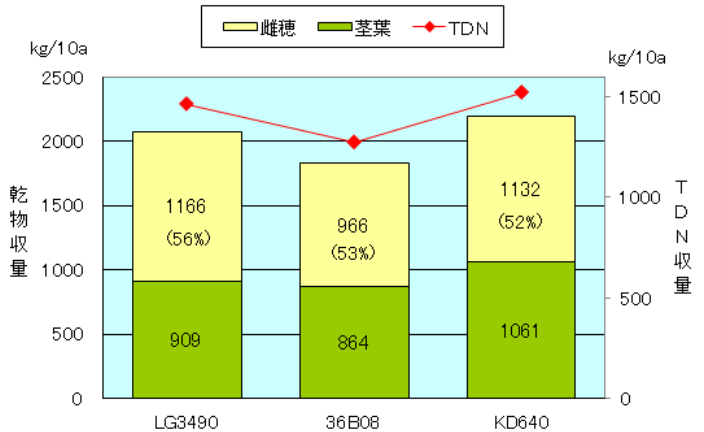


図1 選定品種と標準品種の収量比較

*グラフ内数値は乾雌穂重割合



写真1 LG3490の生育状況

III その他

1 執筆者

松澤 保

2 研究課題名

牧草・飼料作物の優良送付・品種の選定 (1) 飼料用トウモロコシ

3 主な参考文献・資料

(1) 福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準

(2) 平成20年度～22年度センター試験成績概要